



© 2025 Hosiden Corporation

2025年3月期 決算説明会

2025年5月16日
ホシデン株式会社

1

Empowering Tomorrow's Connections



ご挨拶

本日はお忙しい中、弊社の説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

社長の古橋より詳しく説明させていただきます前に、お手元の資料に沿って、2024年度通期実績と2025年度見込みの数字を中心に、簡単に説明させていただきます。

Agenda

第1章

1部 2024年度 業績概要

2部 2025年度 業績予想

3部 トピックス

4部 その他参考資料

第2章

1部 代表取締役社長
古橋健士からのメッセージ

2部 主なQ&A



© 2025 Hosiden Corporation

第1章 1部

2024年度 業績概要

5

Empowering Tomorrow's Connections



© 2025 Hosiden Corporation

6

Empowering Tomorrow's Connections

2024年度 通期実績

	2023年度		2024年度		増減	
	(百万円)	利益率(%)	(百万円)	利益率(%)	(百万円)	前年比(%)
売上高	218,910	-	247,571	-	+28,661	+13.1
営業利益	12,925	5.9	13,573	5.5	+648	+5.0
経常利益	18,160	8.3	14,776	6.0	▲3,384	▲18.6
親会社株主に帰属 する当期純利益	11,632	5.3	10,037	4.1	▲1,595	▲13.7
純資産	134,870		140,317		+5,447	+4.0

2024年度 通期実績

売上

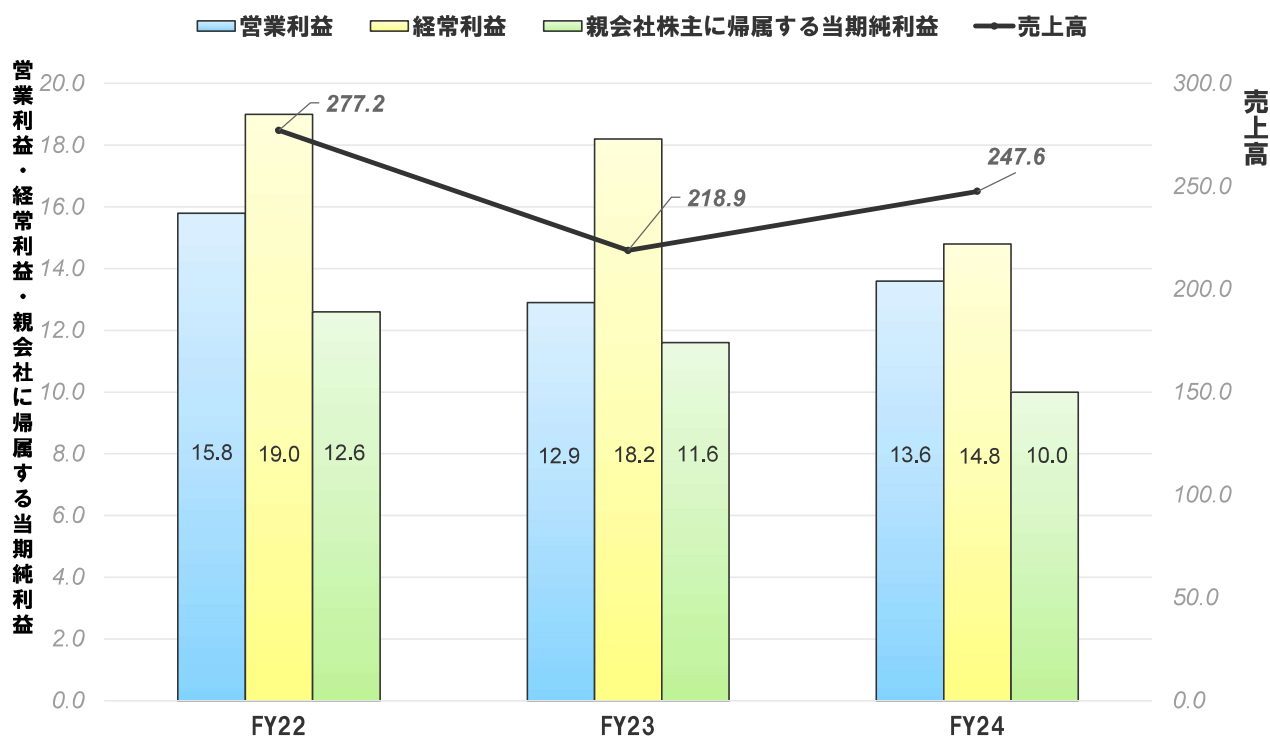
・全体の売上高は、前期比13.1%増（金額にして約287億円増）の約2,476億円となりました。内訳としては、アミューズメント関連向けで約207億円の増加、移動体通信向けで約79億円の増加、輸送機器向けで19億円の増加となりました。一方、その他向けで約17億円の減少がありました。

利益

・利益の面では、営業利益は主に売上の増加に加え、移動体通信向け事業の収益率の改善により、前期比5.0%増（金額にして約6億円増）の約136億円となりました。また、営業外では前期は約42億円の為替差益があったものの、当期の為替差益は約0.5億円と大きく減少しており、経常利益は前期比18.6%減（金額にして約34億円減）の約148億円となりました。

FY22～24業績推移

(単位:十億円)



FY22～24業績推移

2022年度からの3年間の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の推移をグラフにしたものです。円安局面が続いたため、継続して経常利益が営業利益を上回りました。

2024年度 通期実績：使用機器別売上高

	2021年度 (百万円) 構成比(%)		2022年度 (百万円) 構成比(%)		2023年度 (百万円) 構成比(%)		2024年度 (百万円) 構成比(%)	
移動体通信	41,808	20.1	43,949	15.9	46,347	21.2	54,231	21.9
アミューズメント	120,818	58.2	186,914	67.4	124,813	57.0	145,479	58.8
輸送機器	30,029	14.5	28,641	10.3	28,774	13.1	30,629	12.4
その他	14,953	7.2	17,740	6.4	18,976	8.7	17,232	7.0
合計	207,608	100.0	277,244	100.0	218,910	100.0	247,571	100.0

2024年度通期実績：使用機器別売上高

アミューズメント

- ・主要顧客向けの販売は上期では前年同期比23.6%の減少となりましたが、下期では前年同期比89.0%の増加となり、通期では前期比16.6%増の約1,455億円となりました。

移動体通信

- ・主要顧客向け機構部品の増加により前期比17.0%増の約542億円となりました。主要顧客の新モデルの向けの需要が高かったことによります。

輸送機器

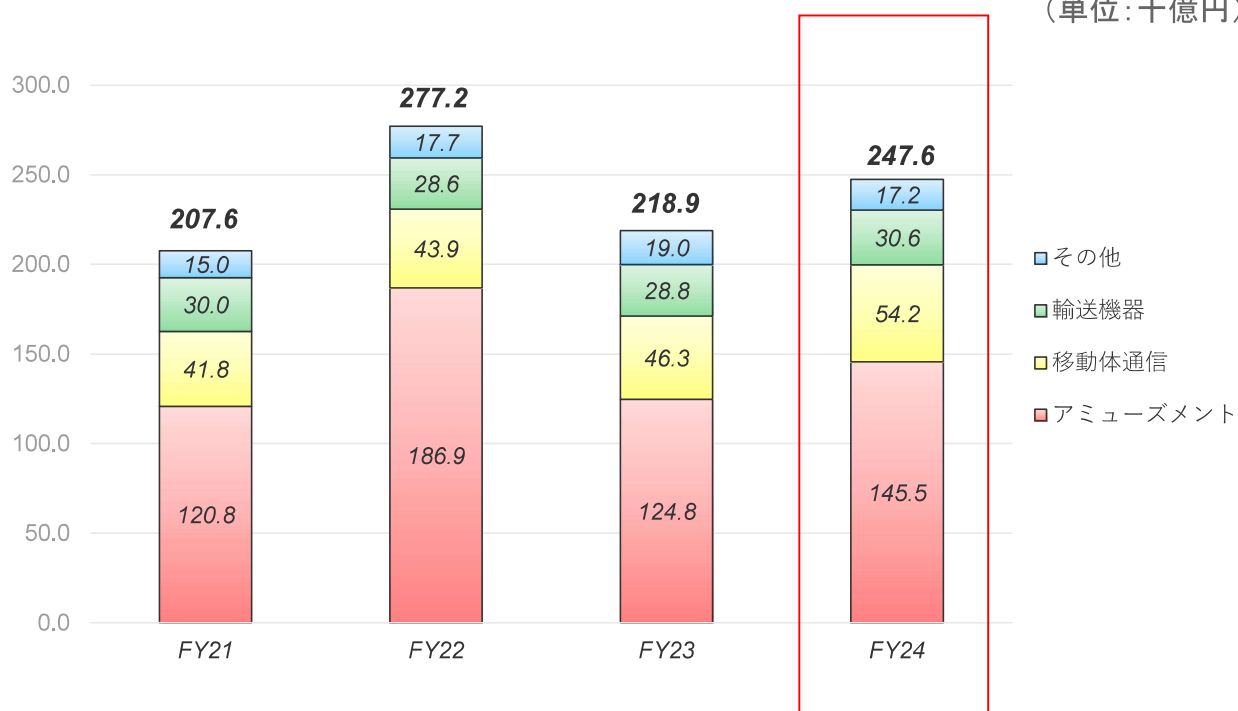
- ・表示部品や複合部品他での減少があったものの、音響部品が前期比14.7%増、機構部品が4.3%増と、輸送機器向け全体では前期比6.4%増の約306億円となりました。

その他

- ・医療、健康関連の販売が減少したことに加え、下期でオーディオ用機器に使用するマイクの販売減少があったことにより、前期比9.2%減の約172億円となりました。

2024年度 通期実績：使用機器別売上高

(単位:十億円)



2024年度 通期実績：部門別売上高

	2021年度 (百万円) 構成比(%)		2022年度 (百万円) 構成比(%)		2023年度 (百万円) 構成比(%)		2024年度 (百万円) 構成比(%)	
機構部品	177,211	85.4	248,063	89.5	184,874	84.5	214,652	86.7
音響部品	13,818	6.7	16,907	6.1	20,183	9.2	20,997	8.5
表示部品	8,431	4.0	3,902	1.4	2,481	1.1	2,201	0.9
複合部品他	8,148	3.9	8,372	3.0	11,372	5.2	9,721	3.9
合計	207,608	100.0	277,244	100.0	218,910	100.0	247,571	100.0

2024年度通期実績：部門別売上高

機構部品

- ・アミューズメント関連向け、移動体通信関連向けを中心に牽引し、前年同期比16.1%増の約2,147億円となりました。

音響部品

- ・下期でオーディオ用機器に使用するマイクの販売減少があったものの、輸送機器向けで伸長し、前年同期比4.0%の約210億円となりました。

表示部品

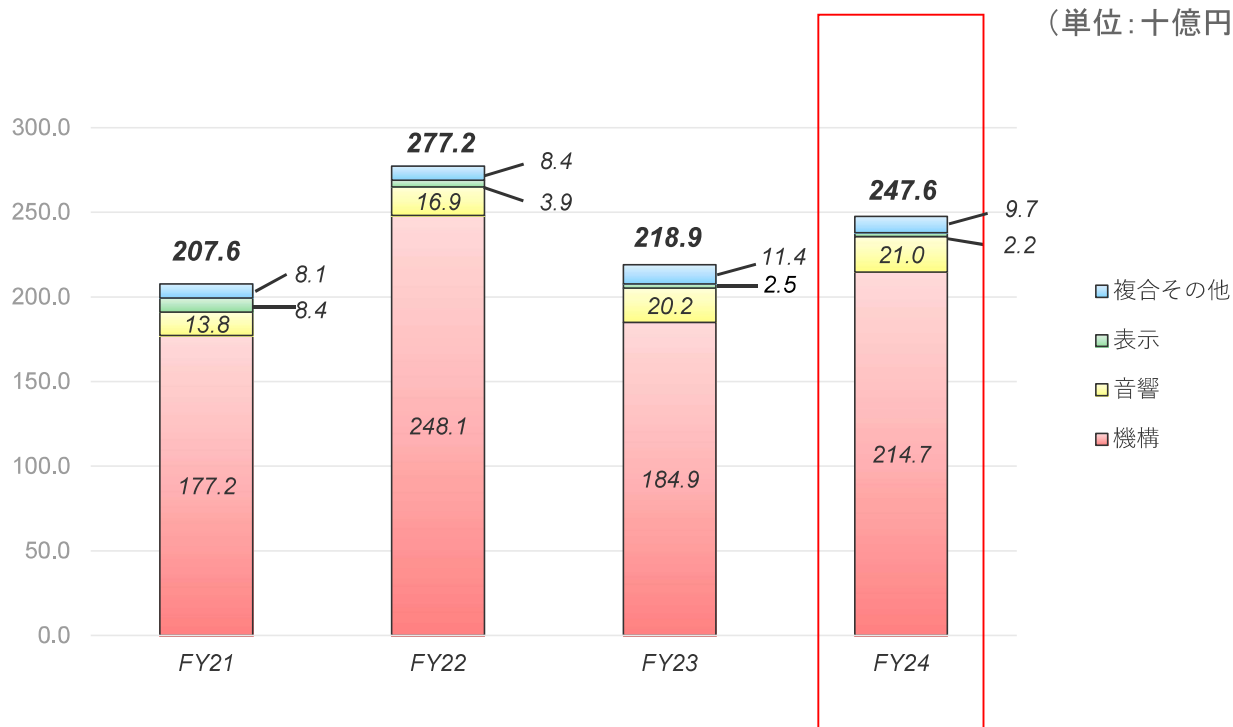
- ・輸送機器向けで減少し、前年同期比11.3%減の約22億円となりました。

複合部品他

- ・主に医療、健康関連の販売が減少し、前年同期比14.5%減の約97億円となりました。

2024年度 通期実績：部門別売上高

(単位:十億円)



2024年度 業績概要総括

全体

- ・売上は前年比13%増加。アミューズメント向け、移動体通信向け、輸送機器向けでそれぞれ伸長した。
- ・営業利益は5%増加。売上増加及び移動体通信向けの利益率改善による。

アミューズメント

- ・主要顧客の需要増加により販売が17%増加。特に、下期で需要が増加した。

移動体通信

- ・主要顧客向けの販売が堅調であり、売上は前年比17%の増加。特に、第1四半期での需要が大きかった。自動化による収益率改善が進んだ。

輸送機器

- ・音響部品セグメント及び機構部品セグメントでの販売増加により、輸送機器全体の売上は前年比6%の増加。

その他

- ・医療、健康関連の販売が減少したことに加え、下期でオーディオ用機器に使用するマイクの販売減少があったため、その他全体の売上は前年比9%の減少。

2024年度 業績概要総括

本ページはここまででお伝えしました2024年度の業績概要の総括となります。



© 2025 Hosiden Corporation

21

Empowering Tomorrow's Connections



© 2025 Hosiden Corporation

22

Empowering Tomorrow's Connections

2025年度 業績予想

	2024年度 実績		2025年度				増減	
	(百万円)	利益率 (%)	上期予想 (百万円)	下期予想 (百万円)	通期予想 (百万円)	利益率 (%)	(百万円)	前年比 (%)
売上高	247,571	-	213,000	193,000	406,000	-	+158,429	+64.0
営業利益	13,573	5.5	5,500	7,500	13,000	3.2	▲573	▲4.2
経常利益	14,776	6.0	4,000	8,000	12,000	3.0	▲2,776	▲18.8
親会社株主に帰属 する当期純利益	10,037	4.1	2,800	5,600	8,400	2.1	▲1,637	▲16.3

2025年度 業績予想

売上

売上高は前期比64.0%増（金額にして約1,584億円増）の4,060億円を予想しています。アミューズメント関連向けで約1,565億円の増加となることが主な要因です。

営業利益

アミューズメント関連向けを中心に売上は大きく伸長しますが、以下の理由により営業利益は前期比4.2%減（金額にして約6億円減）の130億円を予想しています。

- ①売仕入共に大部分がUSドル建てでの取引であり、円高（150円→143円）による営業利益押し下げ効果、約25億円。
- ②米国の関税政策による関税負担の増加、約30億円。
- ③減価償却費の増加、約16億円。

なお、①②は上期での影響が大きく、上期利益を大幅に押し下げる見込み。

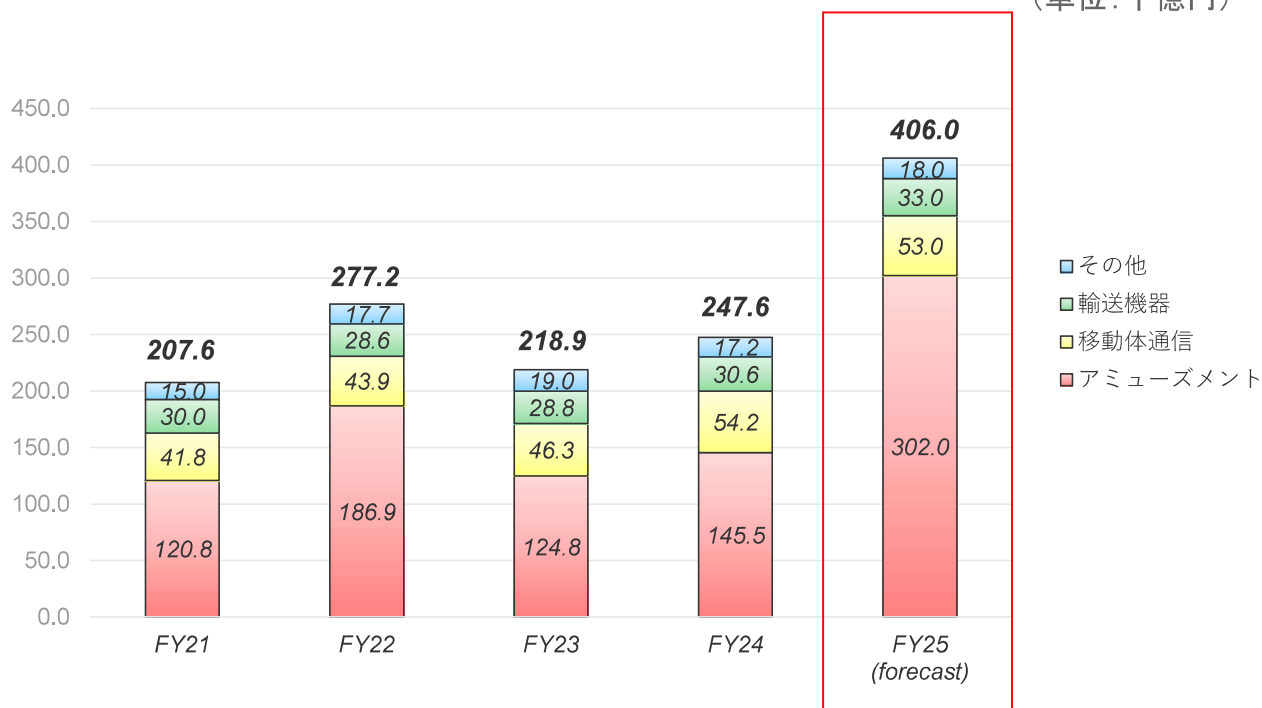
経常利益

上記円高により、営業外の為替差損が約20億円発生すると想定しています。

※為替及び米国関税率の前提は2025年5月8日時点のものによります。

2025年度 通期予想：使用機器別売上高

(単位:十億円)



2025年度通期予想：使用機器別売上高

売上全体

- ・特にアミューズメント向けの販売が伸びることにより64%増加すると見込んでおります。

アミューズメント

- ・前期比107.6%増（金額にして約1,565億円増）の3,020億円と予想しています。25年度は主要顧客の販売が増加見込みとの発表がありました。当社への需要も同様に増加すると見込んでおります。

移動体通信

- ・前期比2.3%減（金額にして約12億円減）の530億円と予想しています。円高の影響を受けるため、円評価の売上高は微減を想定していますが、前年度並みの顧客需要を見込んでおります。

輸送機器

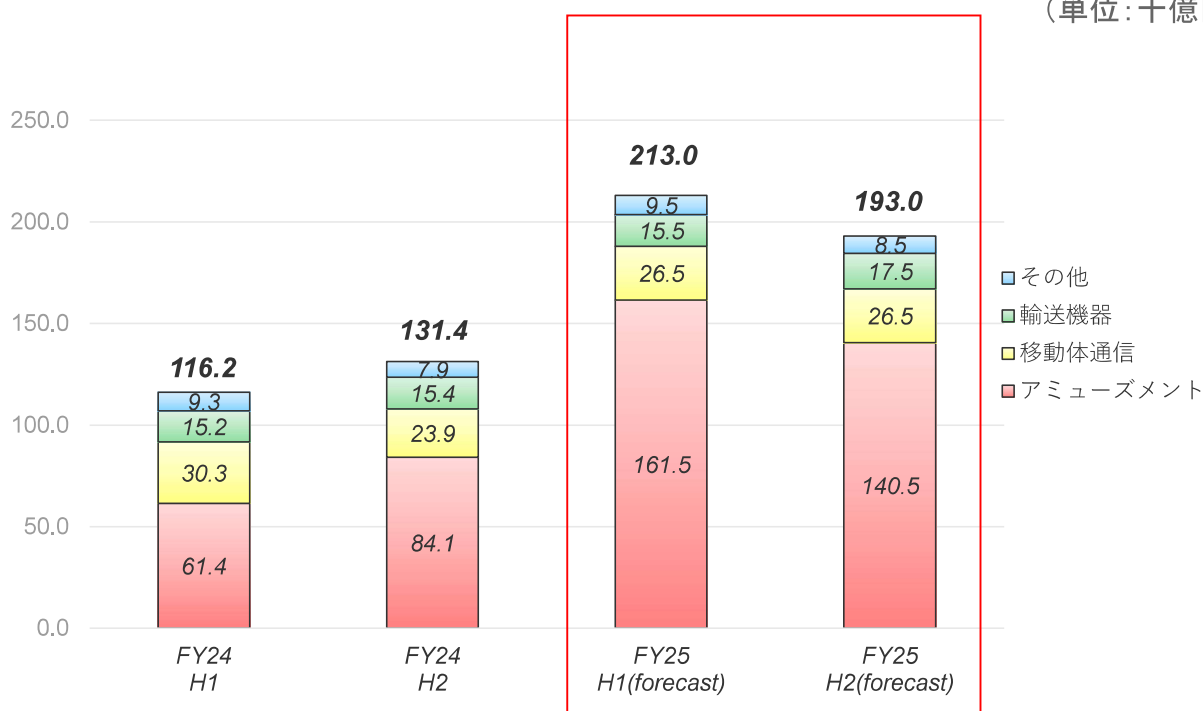
- ・前期比7.7%増（金額にして約24億円増）の330億円と予想しています。主に、機構部品の伸長を見込んでいます。

その他

- ・前期比4.5%増（金額にして約8億円増）の180億円と予想しています。主に、医療、健康関連の増加を見込んでいます。

2025年度 通期予想：使用機器別売上高（半期毎）

（単位：十億円）

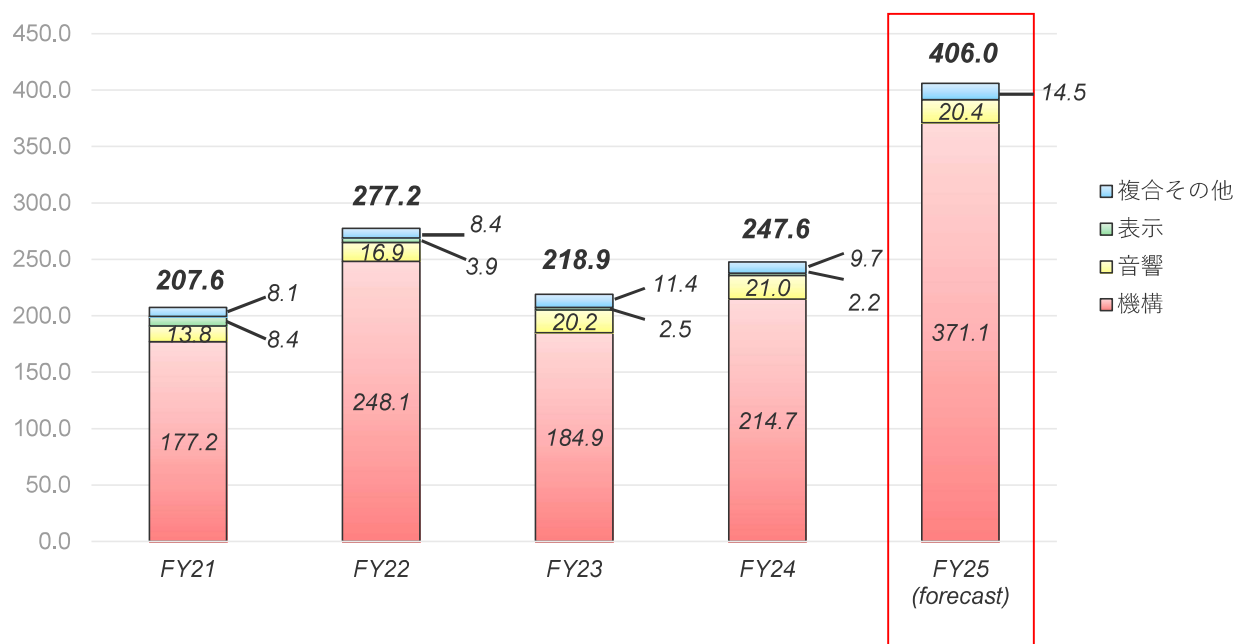


2025年度通期予想：使用機器別売上高（半期毎）

2025年度の売上は上期2,130億円、下期1,930億円と見込んでいます。主にアミューズメント向けのシーズナリティを考慮し、下期は少し減少する前提となっています。

2025年度 通期予想：部門別売上高

(単位：十億円)



2025年度通期予想：部門別売上高

機構部品

- ・主にアミューズメント関連向け、輸送機器向けの増加を予想し3,711億円と予想しております。

音響部品

- ・主に輸送機器向けの減少を予想し204億円と予想しております。

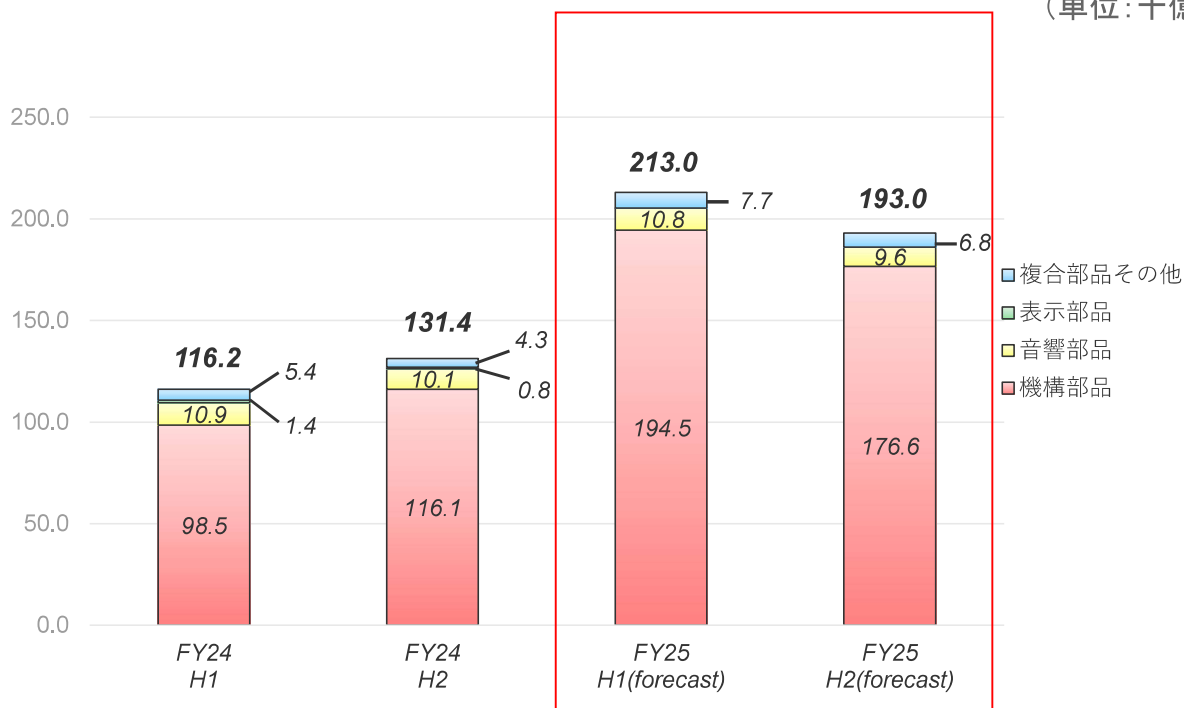
複合部品その他

- ・主にアミューズメント関連向けが減少するものの、医療、健康関連向け及び輸送機器向けで増加し145億円と予想しております。

なお、前年度まで区分表示していた表示部品セグメントは、金額的重要度が小さいため、2025年度より複合部品その他セグメントに合算して表示しています。

2025年度 通期予想：部門別売上高（半期毎）

（単位：十億円）



2025年度通期予想：部門別売上高（半期毎）

2025年度の売上は上期2,130億円、下期1,930億円と見込んでいます。使用機器別売上高での説明と同様に、主に機構部品に含まれるアミューズメント向けのシーズナリティを考慮し、下期は少し減少する前提となっています。

2025年度 業績概要総括

売上

- ・全体としては、特にアミューズメント向けの販売が伸びることにより64%増加見込み。
- ・アミューズメント向けは前期比108%増と想定。25年度は主要顧客の販売が増加見込みとの発表があった。当社への需要も同様に増加すると見込む。
- ・移動体通信は主要顧客の新製品需要に牽引され前年並みを想定。
- ・輸送機器については、主に機構部品の伸長を見込み、通期では前年比8%の増加を想定。
- ・医療、健康関連等の回復もあり、その他は前年比5%増を想定。

利益

- ・円高（150円→143円）による営業利益、経常利益の減少。上期で大きな影響が発生する見込み。
- ・米国向けの関税負担の増加。生産地変更等の取組みにより下期に負担が軽減する見込み。
- ・円高及び関税負担の影響は上期に大きくなると予想しているため、下期と比較して上期の営業利益は少なくなる見込み。
- ・減価償却費が前期より16億円増加。

2025年度 業績予想総括

2025年度の業績予想の総括となります。

米国関税の影響は主に輸送機器向けの中国生産品によるものです。お客様での将来の生産地変更やサプライチェーン変更による当社への間接的な影響は前提条件には含んでおりません。

業績予想の前提

(単位: 百万円)

	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 年度	2 5 年度 (計画)		
					上期	下期	通期
設備投資額	4,179	2,038	2,833	6,734	2,900	4,700	7,600
減価償却費	3,186	3,385	3,150	3,541	2,200	2,900	5,100
研究開発費	2,187	2,020	1,977	2,073	1,250	1,250	2,500

業績予想の前提

設備投資

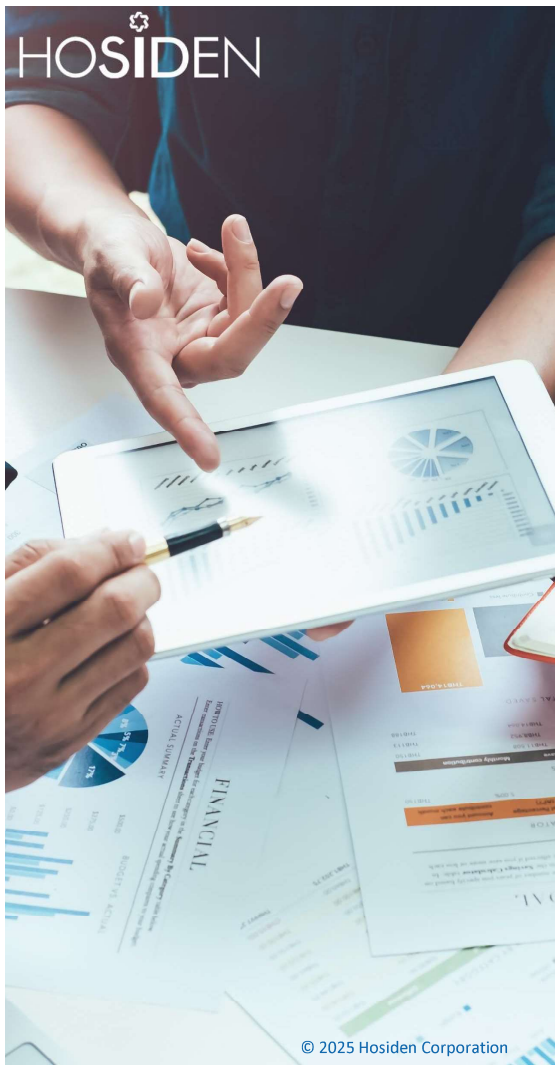
- ・主にアミューズメント関連向け及び移動体通信向けの増加を予想しております。生産設備の追加、自動化投資、建設進行中のベトナム8号棟への設備投資が主な増加要因となります。

減価償却費

- ・前年度Q2～Q3にかけての金型を中心とする設備投資及び今期Q1での追加の金型投資の影響により、今年度は前年度と比較し約16億円の増加を見込んでいます。

研究開発費

- ・前年度計画と同額の25億円としております。2027年度のWeb展示会向けの開発費を含んでおります。



© 2025 Hosiden Corporation

第1章 3部 トピックス

37

Empowering Tomorrow's Connections



© 2025 Hosiden Corporation

38

Empowering Tomorrow's Connections

株主還元 現状と目標

- ・連結配当性向30%を維持

	中間配当	期末配当	年間配当
2024年3月期	24円/株	44円/株	68円/株
2025年3月期	19円/株	40円/株	59円/株
2026年3月期(予定)	25円/株	25円/株	50円/株

- ・3年間(23/4~26/3)の自己株式の取得について



株主還元 現状と目標

株主還元につきましては、記載の通りとなります。

ベトナム 新工場

建設目的

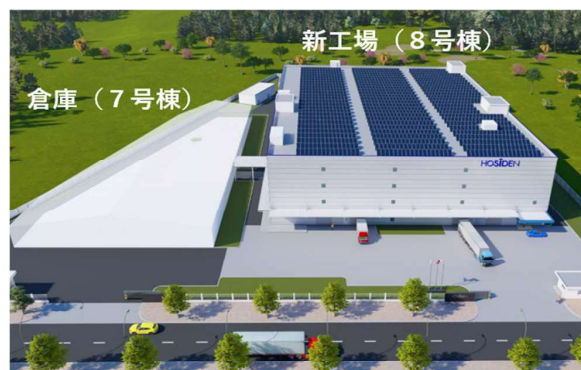
- ・生産能力の増強（過去には6か所あった中国工場が現在は3か所に）
- ・米国での関税対策も含め中国以外の国・地域での拡張

新工場について

- ・ホシデンベトナム（バクザン）の8号棟を建設
- ・床面積 24,000㎡（1フロアー6,000㎡×4フロアー、屋上には太陽光パネルを設置）
- ・2024年度着工、2025年度完成予定



ホシデンベトナム（バクザン）
（赤枠が8号棟建設地）



8号棟イメージ図

ベトナム 新工場

ベトナム工場では、アミューズメント向け主要顧客製品及び移動体通信向け主要顧客製品の生産を行っており、現在、倉庫スペース等も含めると50,000強㎡の床面積があります。

この度、生産能力を増強するために、床面積にして24,000㎡となる新棟の建設中です。政府認可の遅れにより着工が遅れたため、完成は2025年度中となる予定です。

太陽光パネル設置の様子

稼働中



ホシデン和歌山(株)



ホシデン九州(株)



ホシデンベソン 第一期(英国)

稼働中



ホシデン東京事業所



ホシデン本社5号館

2025年度 稼働予定



ホシデンベトナム(バクザン)
(新棟イメージ図)

カーボンニュートラルに関する取り組み

CO₂削減目標

- ・ **中期目標**：2025年度末までに原単位で2013年度比20%削減。
- ・ **長期目標**：2030年度末までに2013年度基準で46%程度の削減に挑戦する。

太陽光パネル設置によるCO₂削減取組み

拠点	年間CO ₂ 削減量	CO ₂ 削減率	稼働時期
ホシデン和歌山(株)	124トン	25.2%	2022年10月
ホシデン九州(株)	187トン	17.4%	2023年 2月
ホシデンベソン (英国)	33トン	39.4%	2023年4月(第一期) 2023年9月(第二期)
ホシデン東京事業所	35トン	29.0%	2024年9月
ホシデン本社5号館	100トン	10.0%	2024年12月
ホシデンベトナム (バクザン)	700トン	5.9%	2025年度(予定)

※上記とは別に2014年4月よりホシデン本社3号館屋上で太陽光パネル稼働

事務所・生産棟照明のLED化、再生可能エネルギーを使用した電力の購入等にも取組中



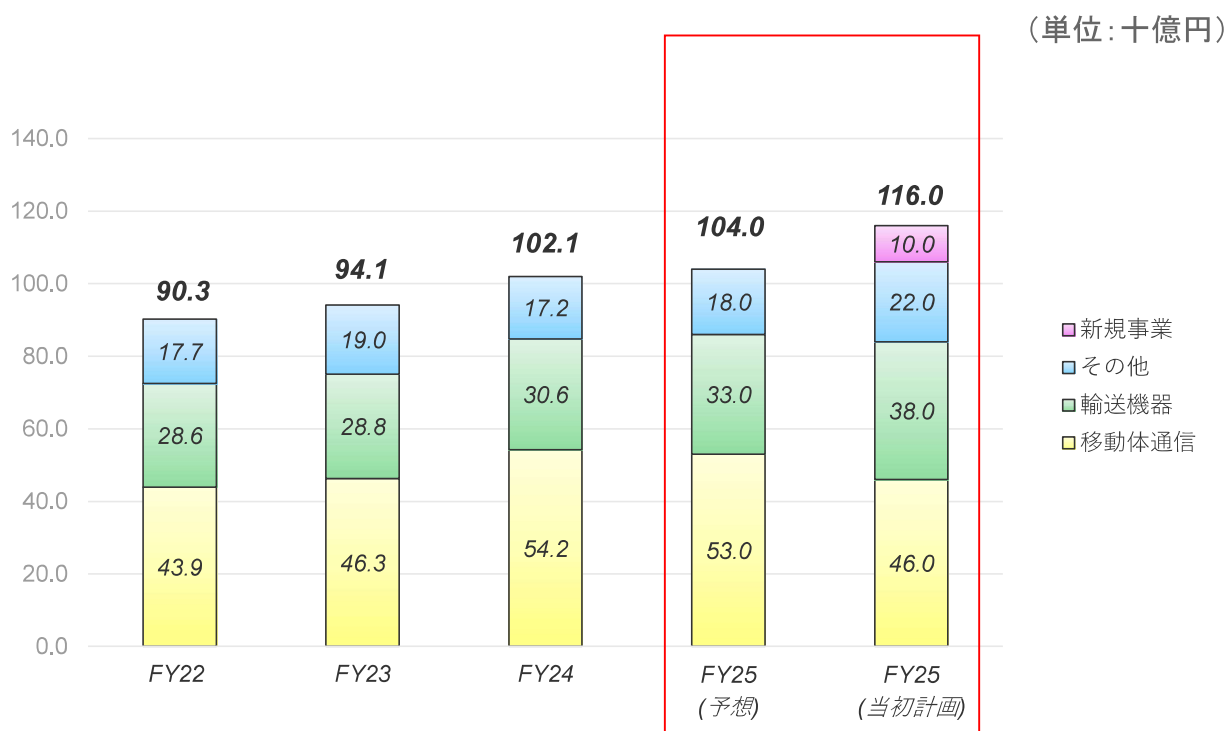
- CDP（Carbon Disclosure Project）スコア
- CDPとは2000年にイギリスで発足した国際NGO（非政府組織）
- 機関投資家だけでなく個人投資家が投資先企業を選定する基準の一つ

ホシデンのCDPにおける評価の推移

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
CDP評価 (気候変動)	D ⁻	D ⁻	D ⁻	D ⁺	D ⁻	D ⁻	D ⁻	D ⁺	C ⁺	B ⁺	未開示

更なるランクアップを目指します。

中期経営計画の進捗状況



中期経営計画の進捗状況

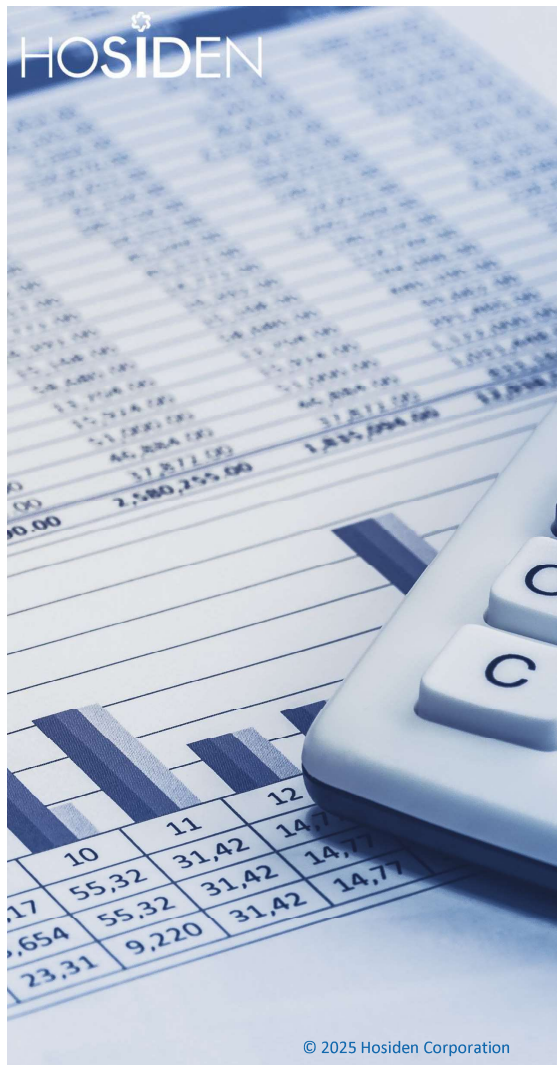
2025年度を最終年度とした3か年中期計画の進捗状況につきましては、現在の2025年度使用機器別売上高予想と比較すると、移動体通信向けは当初計画を達成すると見込んでいますが、輸送機器向け及びその他向けは当初計画の達成が厳しいと見込んでいます。

移動体通信向けは主要顧客のハイエンドモデルを中心に販売が好調であり、需要が伸びました。

輸送機器向けは、多くの顧客において販売が完全には回復しておらず、当初計画を達成することが難しいと見込んでいます。但し、2025年度下期の中で量産販売開始が見込まれるボリュームのある取引により、2026年度には1年遅れで目標金額に近づくと見込んでおります。

その他向けは、医療、健康関連向け、IoT関連及び無線モジュール関連の販売が当初計画ほどには伸びない予想であるため、当初計画を達成するのが難しいと見込んでおります。

なお、新規事業については取組みを行っているものの、現時点で実現の見込みがあるものはございません。



第1章 4部 その他参考資料

© 2025 Hosiden Corporation

49

Empowering Tomorrow's Connections



連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	2024年3月末	2025年3月末	前年度末増減
流動資産	145,925	171,516	+25,591
(現金及び預金、有価証券)	86,911	59,564	▲27,347
(棚卸資産)	32,582	73,324	+40,742
有形固定資産	16,641	19,602	+2,961
無形固定資産、投資その他の資産	12,440	9,160	▲3,280
資産合計	175,008	200,279	+25,271
流動負債	35,042	45,236	+10,194
固定負債	5,094	14,725	+9,631
負債合計	40,137	59,962	+19,825
純資産合計	134,870	140,317	+5,447
負債及び純資産合計	175,008	200,279	+25,271
自己資本比率	77.1	70.1	▲7.0

© 2025 Hosiden Corporation

50

Empowering Tomorrow's Connections

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

(単位: 百万円)

	2023年度	2024年度	増減	2025年度 通期予想
売上高	218,910	247,571	+28,661	406,000
売上原価	196,164	224,422	+28,258	383,500
販売費及び一般管理費	9,820	9,575	▲245	9,500
営業利益	12,925	13,573	+648	13,000
為替差損益	4,214	45	▲4,169	▲2,000
その他営業外収支	1,022	1,157	+135	1,000
経常利益	18,160	14,776	▲3,384	12,000
特別利益	14	18	+4	-
特別損失	965	565	▲400	-
税金等調整前当期純利益	17,210	14,229	▲2,981	12,000
法人税等合計	5,578	4,192	▲1,386	3,600
親会社株主に帰属する当期純利益	11,632	10,037	▲1,595	8,400
包括利益	14,702	10,779	▲3,923	-

連結キャッシュフロー計算書

(単位: 百万円)

	2023年度	2024年度
税金等調整前当期純利益	17,210	14,229
減価償却費	3,150	3,540
売上債権、仕入債務、棚卸資産等の増減	11,620	▲29,275
その他	▲5,049	▲6,722
営業活動によるキャッシュフロー	26,931	▲18,228
定期預金の増減	▲2,125	▲2,419
長期性預金の預入による支出	▲3,500	3,000
有形固定資産の取得による支出	▲2,742	▲6,262
その他	22	▲250
投資活動によるキャッシュフロー	▲8,345	▲5,931
自己株式の取得による支出	▲2,817	▲3,000
配当金の支払額	▲3,798	▲3,264
その他	▲1,325	952
財務活動によるキャッシュフロー	▲7,940	▲5,312
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲1	▲420
現金及び現金同等物の増減	10,644	▲29,892
現金及び現金同等物の期末残高	76,662	46,769



第2章 1部

代表取締役社長 古橋健士からのメッセージ

1. 2025年3月期の振り返り

・1-1 電子部品業界

業界全体ではあまり良くなく、当初の計画を達成する部品メーカーは少なかった。その中ではAIサーバー関連市場向けや、中国メーカーとの輸送機器関連及びスマートフォン関連取引を行っている部品メーカーは良かったと思われる。去年は電子部品業界の中でAIサーバーの市場が大きくなったということが見えてきた年であった。

・1-2 当社の状況－全体

当社において、昨年特に良かった点はアミューズメント関連ビジネスで新しい仕事に参画できたことである。去年の今頃から取り組み、計画から1日たりとも遅れずに生産立ち上げし、新製品の受注に結びついた。悪かった点は、使用機器別で「その他」セグメントが医療、健康や一部の音響製品で減少したために当初の計画に達しなかったことである。

・ 1-3 アミューズメント市場

アミューズメントは2023年度の上期に客先需要が少なかったこともあり、2024年度の上期は伸長率としては伸びた。下期は新製品のおかげで伸びた。

新製品については情報統制を徹底する必要がある、前年度中は新製品の見込みをガイドランスに織り込むことは一切できなかった。実績としては新製品の生産開始もあり2月に通期予想の上方修正を発表したが実績は更に上振れた。

・ 1-4 移動体通信市場

移動体通信向けは主に韓国メーカー様とのビジネスが非常に伸びて前期の売上が540億円を超えた。スマートフォン市場や顧客が大きく伸びているわけではない中で当社は17%伸びた。これまでシェアはQCD（品質、コスト、デリバリー）で決めると顧客から言われていたが、自動化についても選定の基準に加えられ、効果的な自動化に取り組まないとシェアを頂けない状況となっている。当社工場のあるベトナムでも人件費は上昇する傾向にあるので、自動化により人を減らすことに積極的に取り組んでいく。

一昨年の8月から自動化に取り組んできたことで、それまで400億円の生産を1,500人程度で行ってきたが、現在は、540億円の生産を1,000人程度で対応できるようになった。非常に効果的な自動化ができたことで、以前よりQCDを評価されトップであったシェアがさらに伸びた。

次の自動化も2025年初から計画をスタートし取り組んでいる。お客様は、ローエンドも含めて中国のスマートフォンメーカーと戦うためにラインの完全自動化を徹底している。我々もお客様をみない、さらなる自動化を行っていく。

・ 1-5 輸送機器市場

輸送機器セグメントでは市場があまり伸びなかったものの、当社は6%ほど伸びた。

中国を除いた世界の自動車メーカーで、前期の年初に立てた計画をクリアした自動車メーカーは限られており、このような状況が2年も続いている。

自動車産業はピラミッド構造になっており、ティア0は大きな会社で、苦境になれば政府の支援がある場合もあるが、ティア1やティア2には援助がない。当社はティア1、ティア2ともビジネスをしているが、ティア1、ティア2のバランスシートを見ると、信用に問題がある会社が多い。自動車産業のピラミッドは下から崩れていくのではないかと心配している。

このような状況の中、当社は音響関連で日本のトップメーカー様に納入し伸長した。今後ホシデンとしてはできるだけティア1として自動車メーカーとの直接取引を進めていきたい。前期は欧州の自動車メーカー様にティア1として取引を開始することができた。

現在、100%中国資本の自動車メーカーとはビジネスが非常に厳しいため取引をしていないが、BYDが月に50万台生産しているように、中国メーカーが伸びてきている状況で本当に取引しなくても良いのかとの議論を社内でも行っている。

・1-6 その他市場

その他市場向けは9%の減少となった。医療、健康関連ビジネスでの受注が減少したこと、民生のオーディオ製品が伸びなかったことが原因である。この分野を次の柱として育てるべく、他の健康機器メーカーやオーディオメーカーに拡大し始めているところ、既存のお客様で減少となったのは非常に残念であった。

・1-7 利益について

前期に42億円あった為替差益が、今年は殆どなかったことから、経常利益では減益となった。営業利益は前期比5%の増加となったが、売上高では13%増加しており、営業利益にも為替のマイナスの影響があった。実力値に近づいているとも言える。

ROEも下がっている。2024/3期の8.9%から2025/3期は7.3%と、1.6%の減少となった。自己資本比率は2024/3期の77.1%から2025/3期は70.1%となり、少し下がっている。この理由は在庫が増加し総資産が増えているためである。アミューズメントのビジネスでは新製品が立ち上がる時にはまとまった資金が必要になる。8、9年前の前回機種でも同様なことがおきた。当時、単体ベースでは資金を蓄えていたが、一時的にほとんど使用してしまった。バランスシートが健全化するのは今期一杯かかると考えている。アミューズメント以外の在庫圧縮は進んでいるので心配はない。

・1-8 設備投資について

2024年度の設備投資は67億円となり、前年28億円から劇的に増加した。増加の理由としては、主にアミューズメントの新製品の金型投資、移動体通信向けの自動化投資のためである。また、アミューズメントでも自動化投資を進めている。新製品だけでなく、旧製品ラインの自動化も進めている。それらにより67億円の設備投資となった。

新年度は76億円を計画している。金型投資、機械化、自動化、ベトナムの新棟（総額20億円の見込）等であるが、計画の金額には達するのではないかと見ている。

2. 2025年度の業績予想について

2025年度は売上高が4,060億円となる一方で、営業利益は130億円と大きくない。計画の営業利益については、円高による為替の影響で25億円、米国の関税で30億円のマイナスの影響を見込んでいる。経常利益では営業外で更に20億円の為替差損を見込み、トータルで75億円の減益の要素を見込んでいる。米国の関税対策として、生産拠点を変えたいという思いはあるものの、ベトナムやマレーシアに移管したとしてもそれぞれ46%、24%の関税は発生する。今期は米国の関税の影響は避けては通れない。なお、為替と米国の関税については、決算発表前日である5月8日の情報を前提としている。正確な情報が確定した後に、あらためて業績予測を発表する。

・2-1 アミューズメント市場

2025年度のアミューズメント向け売上は3,020億円であり、前期の倍以上の売上を計画している。新製品の生産を精一杯行っているが、現在ベトナムで人を集めるのは大変である。昨年の秋に3,700名いたワーカーが、年明け（ベトナムの旧正月 テト前）に1,000人減って2,700人となった。労働環境の改善を行い、直近では5,800人に増やすことができた。

新製品は6月5日に発売の予定であり、まだ販売しておらず評価は定まっていない。どんな年でもクリスマス明けは落ちている。アクセルは踏み続けながら、いつでもブレーキを踏める準備が必要である。今のところはアクセルを踏み続けている。

・2-2 移動体通信市場

移動体通信向けについては、今年度の中でお客様の薄型の機種が発売されるという話があるが、あくまでも一般情報であり噂である。スマートフォンについては薄型化・軽量化についての要望がある一方で、バッテリーの大容量化の要望もある。バッテリーの容量を確保しつつ、薄型化・軽量化する需要は確実にあるため、そのような製品があれば売れると考えている。そういった環境の中、当社は前年並みの業績を確保できると考えている。

・2-3 輸送機器市場

輸送機器については7.7%伸ばしたい。お客様で新製品が遅れているものがあるが、年内にはビジネスを開始したい。音響部品、機構部品で世界のNo.1自動車メーカーとビジネスをするという夢を持って取り組んできた。今、少しずつ形になってきたと言える。

・2-4 結び

新年度アミューズメント向けをどれだけ伸ばせるかという取り組みに加え、アミューズメント向け以外にも成長を確保していきたい。利益が下がる点については為替と関税の影響があるということをご理解いただきたい。

以上



Q & A

© 2025 Hosiden Corporation

Empowering Tomorrow's Connections

第2章 2部

主なQ&A

■ 主なQ&A

Q1

→お客様の今年の1,500万台の予想について、当社でキャッチアップ可能か。また来期（2026年度）も伸ばしていく場合にも当社でキャッチアップ可能か。

A1

→今年度において、お客様から増産のお話があれば、できる、できないかにかかわらず、必ずやる。来年度においても同様である。当社のベトナム工場の新棟建設は遅れているものの、来年度には新棟（8号棟）も使えるようになる。2025年内には完成させ、ワーカーも確保し来年春までには必ず生産体制を増強する。



THANK YOU !

<https://www.hosiden.com/>

